

農村RMO 推進フォーラム
～住み続けられる地域を目指して～

世界農業遺産「能登の里山里海」の資源活用と 地域人材育成プラットフォームの構築_金沢大学 の18年間の歩み』

淑瑠 ラフマン 2023/2/20

自己紹介

中国新疆ウイグル自治区出身、ウイグル人。2001年来日、富山大学の教科教育修士、金沢大学文学博士

大学で音楽教育学の道に進む。民族音楽の社会的環境に関する研究で修士、ウイグル伝統音楽の音程構造の研究で博士号取得。

・日中無形文化遺産の研究(金沢大学)、ユネスコアジア太平洋無形文化遺産の研究(日本文化財機構)を経て、2012年から珠洲市在住。金沢大学「能登里山里海SDGsマイスタープログラム」のスタッフ、教員として勤務

。



目次

金沢大学 里山里海プロジェクト (8年間の歩み)

外部人材の活用方法

地域活動の中核を担っているマイスタープログラム修了生の事例等

地域づくり

地域団体の連携

外部人材の活用

自然と向き合い学ぶ「知のプラットフォーム」



なぜ能登で人材を育成するのか？

急速な過疎高齢化
 2003年 2030年
 人口減少：23万人⇒10万人
 高齢化率： 33% ⇒50%



里山の荒廃、伝統文化の衰退

能登半島の「強み」

- >豊かな里山里海、景観、文化
- >伝統産業、発酵などの食品加工技術



若者が可能性を感じてチジできる能登に！



能登地域

世界農業遺産 :日本で初めて！
 平成23年6月：能登の里山里海」認定 佐渡市「キと共生する佐渡の里山」と同時）

。珠洲市、輪島市、穴水町、能登町 奥能登2市2町）
 志賀町、七尾市、中能登町、羽咋市、宝達志水町 中能登2市3町）

■伝統的な農林漁法と生物多様性
 棚田や谷地田、2,000を超えるため池などがモザイク状に配置、絶滅危惧種を含む多くの生物の生息地に。

■伝えていくべき伝統的な技術
 日本では唯一能登にのみ残る「揚げ浜式塩田」、輪島塗」、炭焼き」などの伝統的な技術。

■里山里海の利用保全活動
 棚田オーナー制度 農家民宿・ブランド化 多様な主体による生業の創出 行政と大学が連携した人材育成など、各地で特色ある取組。

能登が育んだ文化の特徴

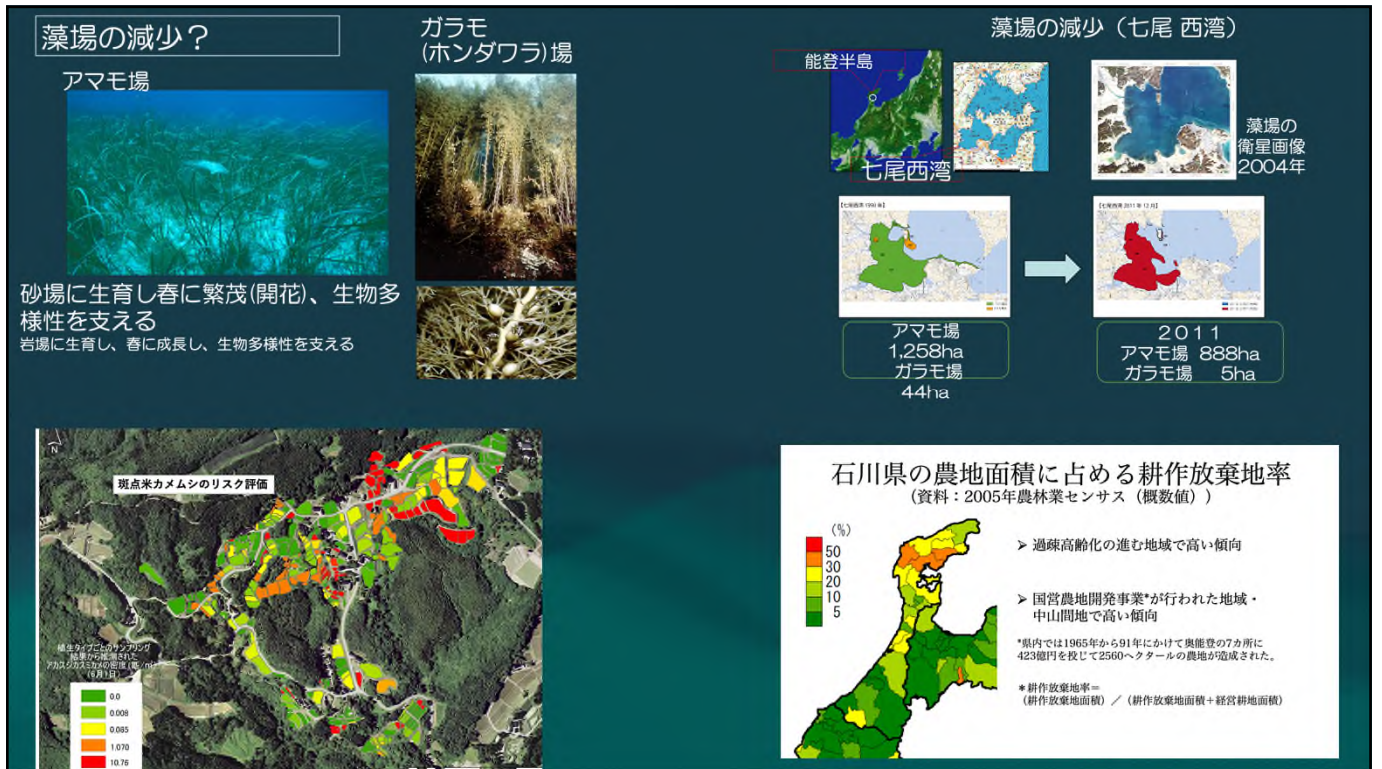
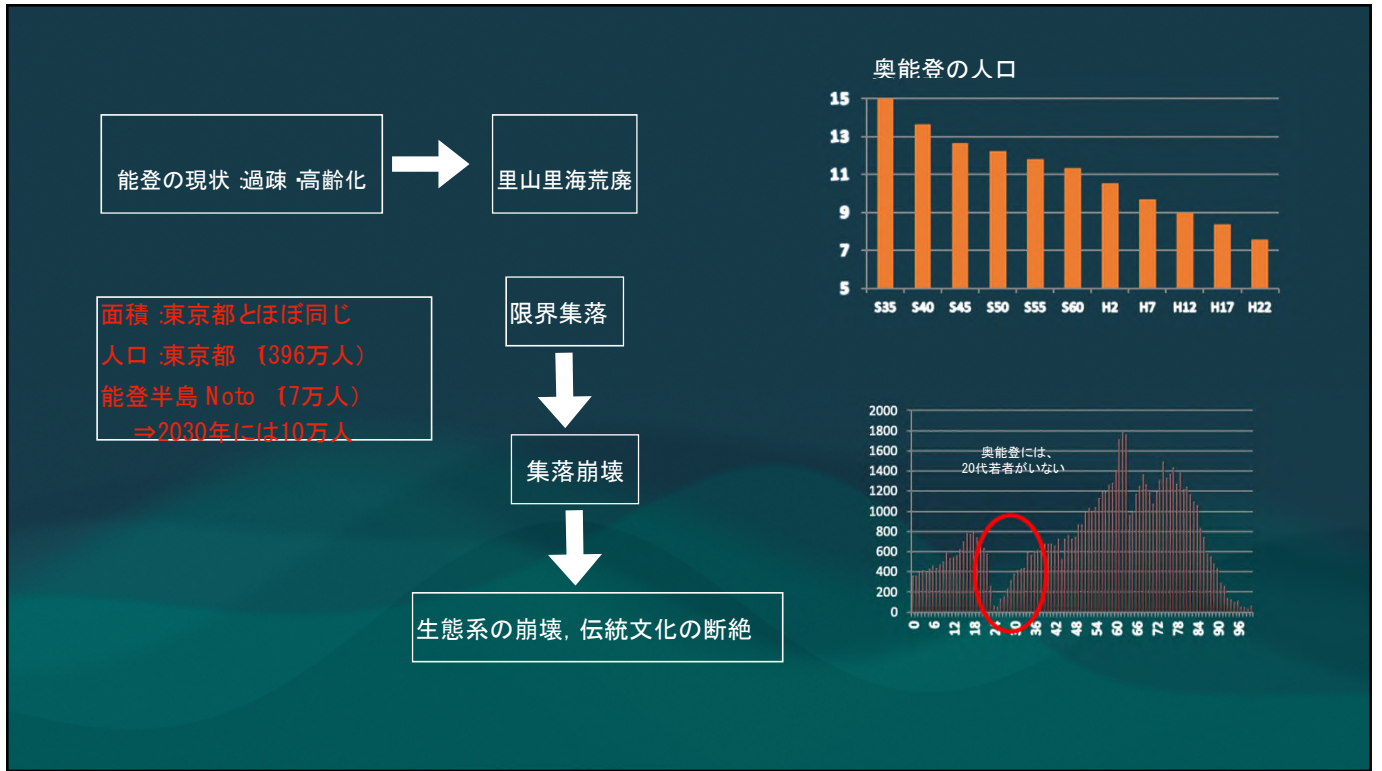
祈りの文化__キリコ祭りや報恩講などの神仏行事

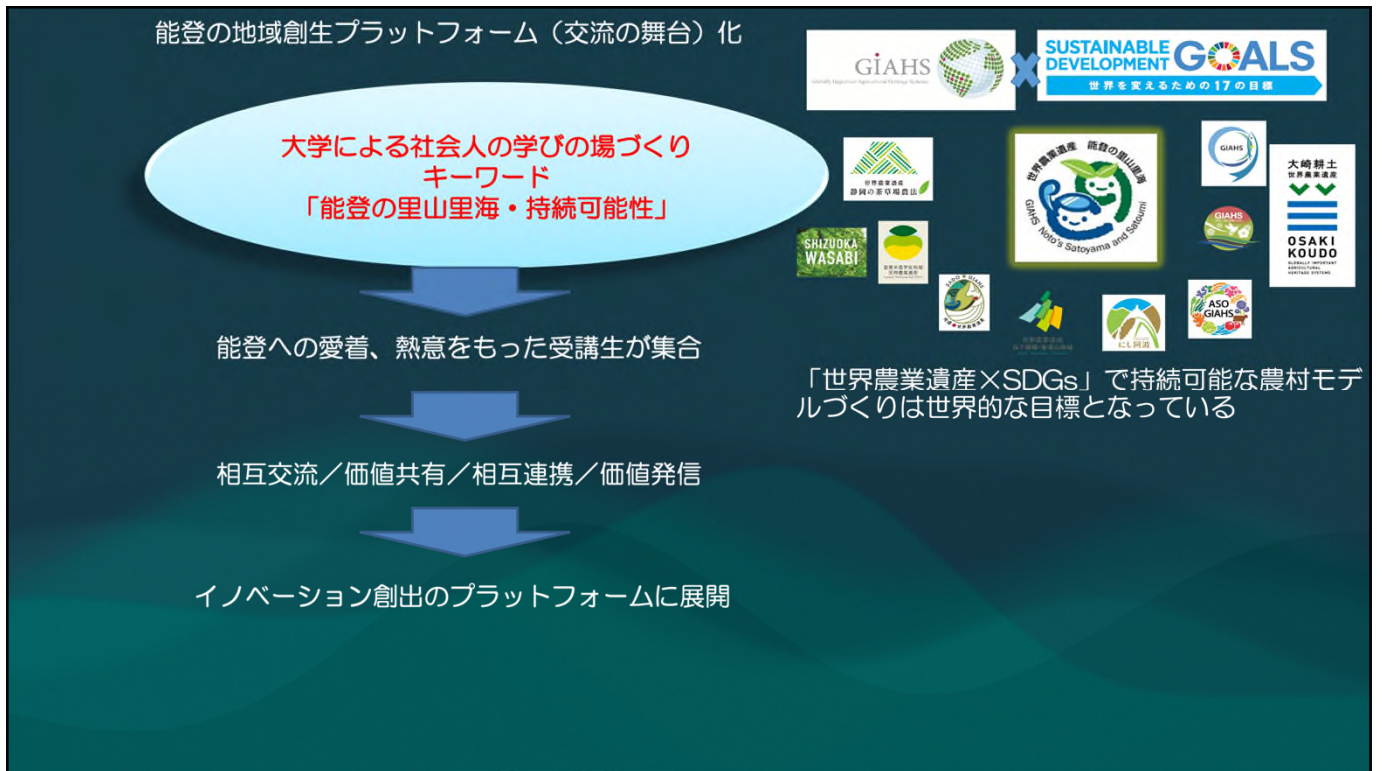
待ちの文化__ボラ待ち漁、発酵食品、朝市、棚田、アエノカゼ、揚浜式塩田、マガキ

木の文化 __ 輪島漆器、守の森、、キリコと松明

もてなしの文化__アエノコト、ヨバレ、寄り神信仰

能登の里山里海の問題





石川県 ISHIKAWA

珠洲市 ★

能登町 鳳珠郡

穴水町

七尾市 能登郡

七尾市

中能登町 能登郡

羽咋市 能登郡

宝達志水町 羽咋郡

かほく市 河北郡

内灘町 津幡町

野々市市

能美郡 川北町 能美市

小松市 白山市

加賀市

富山県

岐阜県

福井県

能登空港1h

金沢から 150Km 2.5 時間

能登学舎

〒927-1462 珠洲市三崎町小泊33-7

学びの場としての「能登学舎」

2004年3月 廃校 (旧・小泊小学校)

2006年10月 金沢大学が珠洲市から借受、
市が改修工事

1. 地区住民のイベントスペース
2. 里山里海保全のNPO 拠点
3. コミュニティ・レストラン
4. 里山担当の市職員の事務所
5. 大学の教育研究拠点
6. 能登SDGsラボの拠点



多機能の複合施設として再活用

マイスタープログラムの実施体制

実施主体・出資者

実施主体



年間2千万円

共同実施者



年間2千万円

金沢大学能登学舎



■人材育成
能登里山里海
SDGs マイス
タープログラム
(2019.4-
2022.3)

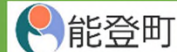


■研究事業
(寄付講座)
能登里山里海
SDGs研究部門
(2019.4-
2022.3)

連携機関

受講生の募集協力、
講師派遣ほか

自治体



大学



2012年度～2016年度

里山里海マイスター 金沢大学の実施体制

里山里海マイスター (併及びプログラム代表)

能登学長 能登学長 能登学長

能登オペレーティング・ユニット、大学COO 地域連携ディレクター

中村浩二 (金沢大学学長補佐、特任教授)

川根孝一 (農学博士、金沢大学教員教授) 元・石川県農業総合研究センター長

宇野文夫 (金沢大学特任教授) 元・放送局ディレクター

2017年度～2019年度

里山里海SDGsマイスター教員スタッフおよび協力者(2019年度)

能登常駐スタッフ

金沢大学 社会貢献担当理事・副学長

プログラム実施責任者 福政義彦 副学長

能登常駐スタッフ(金大・先端科学・社会共創推進機構所属)

5名の博士たちが受講生の学びをサポート

伊藤浩二 (農学博士) 植物生態学

北村隼二 (Ph.D.) 人文地理学

塚澤ラフマン (文学博士) 民族音楽学

高橋昇直子 (農学博士) ローカリズム

岸岡智也 (農学博士) 農村計画、獣害

水口登紀 (研究員)

2020年度～現在

里山里海SDGsマイスター教員スタッフおよび協力者(2021年度)

能登常駐スタッフ (金大・先端科学・社会共創推進機構所属)

アドバイザー

機構担当教員(人材育成グループ)

先導科学・社会共創推進機構

アドバイザー

塚澤ラフマン (文学博士) 民族音楽学

木下靖子 (人類学) 文化人類学

岸岡智也 (農学博士) 農村計画、野生動物保護管理

小林秀輝 (造園学) ランドスケープ

伊藤浩二 (金沢大学学長補佐、特任教授) 元・石川県農業総合研究センター長

宇野文夫 (金沢大学特任教授) 元・放送局ディレクター

マイスター修了認定の方法

認定要件



講義実習の単位認定

全講義実習コマ数の6割以上の出席レポートを義務 (大学の8単位分に相当)



卒業研究の単位認定

主査(金大教員)、副査(担任)に加え、外部審査員(有識者)の3人体制で審査 (大学の4単位分に相当)



カリキュラムのコンセプト

① 里山里海の価値を再評価する

～能登の自然・文化を多角的、総合的に学び、体験します

② SDGsの考え方をベースにした里山里海の持続可能性を学ぶカリキュラムを提供

SDGsの17のゴールを枠にした学びの評価手法を導入

③ 地域の具体的課題やフィールドを活かした課題解決型学習（Project-based learning）の実践

～フィールド科目、卒業研究、プロジェクト研究を通じて

④ 人と人とのつながりを作る

～里山里海をキーワードに、様々な背景や得意分野を持つ人々とのネットワークを広げることができます

講義・実習テーマ予定（月2回、隔週土曜日開講）

SDGsと地域づくり、仕事づくり

- SDGsと能登の持続可能性
- SDGsとの地域、自身との関わり（演習）
- プロジェクトサイクルマネジメント（PCM）演習～バックキャスト思考を知る
- 能登SDGsセッションズ（仮）～修了生の近況報告と現役受講生との交流

里山里海の自然と文化

- 日本と世界の里山里海の持続発展に向けた人材育成
- 能登の里山里海と「地域の価値」を考える
- 景観から暮らし・文化・自然を読み解く
- 地域の自然・文化と持続可能なツーリズム

新たな視点・手法・考え方を学ぶ

- ビジネスを通じた社会課題の解決
- SNS時代の情報発信とICT、先端テクノロジー
- ICTを活用した課題解決のためのチームづくり
- 社会調査実習—能登の地域社会や文化について知る手法—

フィールドワーク科目

- 能登の現場から発見する課題と可能性
- 里山管理・調査実習（里山保全の現場）
- 先進事例調査実習（岐阜県GIAHS地域を中心に）
- 能登の里山里海調査実習（少人数実施）

多様な講師陣による
アカデミックな知識や
地域の知恵



講義の概要

月2回（第2、4土曜）
能登の現状と可能性
多彩な講師から学ぶ

生物多様性や地域経済の研究
全国の地域活性化の実践事例



「都市と農村をつなぐビジネス」
曾根原久司氏



「インバウンド・ツーリズム」
山田 拓氏



「芸術と地域づくり」
北川 フミ夫氏

ある一日の授業風景（テーマ：『能登の里山里海』の活用と未来への継承）

午前講義スタート（9：30-12：30）



①中村浩二先生が里山里海の基調講義を行います。



②テーマに関するゲストを複数招き、現場の話を踏まえた討論を行います。



③ランチは学内の地産地消費場「へんざいもん」で

午後講義スタート（13:30～16:30）

放課後（16:30～18:00）



④グループに分かれてワークショップ。里山里海のベテラン実践者を招き、課題を伺います



⑤グループの意見交換を模造紙にまとめ、全体共有し、一日が終わりました。



⑥地元信金と共催で「創業塾」を開講。希望する受講生が参加します。

野外実習



水田生きもの調査（粟津地区）



里海実習（カニ分類調査）



揚げ浜塩田見学（塩田村）



里山管理実習（大野製炭工場）

地域の実践者とのコラボを重視

フィールドワーク科目

先進事例調査実習（県外視察）



静岡県
沼津市戸田

能登の里山里海調査実習（県内、体験実習）



滋賀県
東近江市



卒業研究・プロジェクト研究

卒業研究（本科コース）に取り組む意義

担任制

1. 里山里海の課題や活用に関するテーマに集中的に取り組む
2. 新たな発想・アイデアを得て、構想を形にする
3. 自己の活動や生業を現状評価し、社会的意義と関連づける

調査・研究
+
報告会



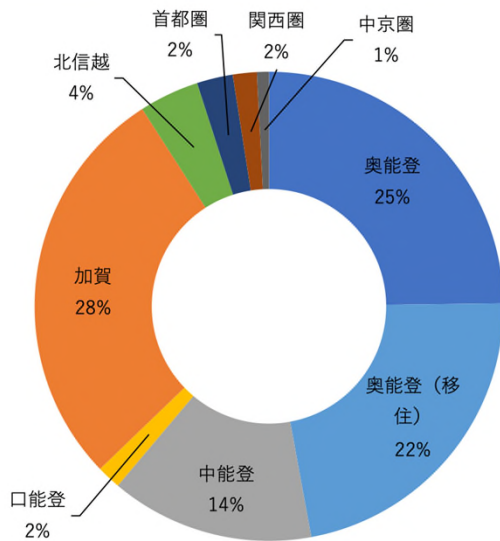
- 受講生のステップアップ、自己実現の機会
- 地域ニーズ・地域課題の発掘・解決

プロジェクト研究（専科コース）は、構想を実現化するステップ

金沢大学学長より 「マイスター」認定証を交付



居住地（入学時）



移住者(U・ターン)の定着促進



| | | |
|----------------------|-----|-----|
| 奥能登地域へのマイスター移住者(修了生) | | 29人 |
| うち定着者 | | 25人 |
| 内訳 | 珠洲市 | 16人 |
| | 輪島市 | 5人 |
| | 能登町 | 3人 |
| | 穴水町 | 1人 |

奥能登地域での
マイスター移住者定着率
= **85%**

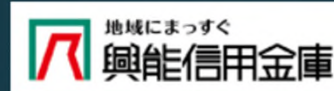
移住間もない不安定な
時期をサポート

創業、事業化へのサポート

「能登里山里海 創業塾」の開講

- ◆ 目的
受講生のビジネスシーズを育て、
創業に結びつける
- ～全6回の講義演習で、ビジネスの
実務（財務、労務管理等）など、
起業に必要なスキルを学ぶ。
- ～個別の事業計画づくりの指導

規定の出席で「認定証」を授与
→創業補助金等の支援を受けやすく



「能登里山里海マイスター」プログラム・興能信用金庫

能登里山里海 創業塾

要申込 受講無料

起業・創業したい方、起業・創業をイメージしている方、起業・創業で悩んでいる方、迷っている方、ぜひ参加してみませんか。
本塾を通して受講することで、創業・起業への実現性を高めることができます。もちろん、気になるテーマだけの参加もお待ちしております。

【能登里山里海 創業塾】とは：
マイスタープログラムと併行して受講可能な創業支援プログラムです。高度での創業（事業化）に必要な知識やスキルを体系的に学びます。
創業成功の秘訣、創業の課題解決法についての説明や、創業された方の経験談を学ぶことができます。

【講義予定（全6回）】

| | |
|--------------------|---------------------|
| 第1回「経営について」 | 6月3日（土）16:45～18:15 |
| 第2回「財務について」 | 6月17日（土）16:45～18:15 |
| 第3回「人材育成・労務管理について」 | 8月26日（土）開催予定 |
| 第4回「販路開拓について」 | 9月2日（土）開催予定 |
| 第5回「マーケティングについて」 | 9月16日（土）開催予定 |
| 第6回「事業プラン発表会」 | 10月7日（土）開催予定 |

【会場】金沢大学能登学舎（珠洲市三崎町小泊33-7）

学「創業支援センター」の運営方針について
経済学・経営学・次世代による 持続的発展を 高度の力を身につけ、第1回～4回と合わせて、4回（1回）開講し、約1年を修了されることとなります。

【主催】金沢大学「能登里山里海マイスター」育成プログラム
興能信用金庫
【共同】珠洲市商工会、中小企業家振興会、北陸本報



終了後の取り組み： 里山里海マイスターネットワーク

マイスター修了生の同窓会組織。2010年発足。会員数約225名。

目的

良好な地域社会の維持・形成、自然と共生した里山・里海の再構築

内容

- ①交流会の開催
- ②交流促進のための情報発信
- ③活動等の相互支援
(例：大野製炭クヌギ植林活動への協力)
- ④ マイスタープログラムの運営、
カリキュラムへの協力
(例：委員会参加、講義実習 での講師参加)

人と人とのつながりを作る



2014年からスタート
主な取り組み

- ・無農薬野菜市の定期開催（月1回）
- ・参加農家の相互訪問による見学会

これまでに16店が参加（不定期含む）
マイスター修了生も複数が出店



全景その2

農家や飲食店からなる出店者たちが、自らの手で企画・運営・対面販売することで、コミュニティ形成の場となっている

能登で古くから有機栽培を続ける
ベテラン農家と若手農家の交流
(学びあい) の場にも

2014年4月

GIAHSサイト間の連携、JICA事業

イフガオ里山マイスター養成プログラムが開講



能登で草の根の交流



67名のフィリピン・イフガオ里山マイスターが活躍中！

耕作放棄地を活用した修了生の活動事例






浅田 星太郎
酒葬会渡り勤務日本酒伝道師を目指し移住。若者のネットワークは持っているが、地元農家とのつながりや酒米栽培の知識なし。

都市部の大学生や地元中学生との交流による棚田放棄地での酒米栽培プロジェクト


地元中学生、県内外の大学生によりかけ連携して酒米栽培

宗玄酒造にて能登杜氏の手により醸される


世界農業遺産「能登の里山里海」奥能登珠洲産米100%でつくられた日本酒が完成！




田畑 行輝
地元農家の後継者
山間の集落で親子二代で棚田米栽培。集落活性化を図る。酒米栽培は今回初めての経験。



20歳になるまで貯蔵！



成人式に乾杯



酒米栽培とコミュニティの活性化



目的

- ・ 珠洲市内の限界集落をつなぐ
- ・ 耕作放棄地を酒米栽培に活用
- ・ 日本酒の地産地消
- ・ 若者世代への日本酒の普及



成果

地元企業による限界集落のサポート事業

若者によるコミュニティの立ち上げ



品種: 石川門 (石川県が開発)

栽培面積: 800m² (0.8反歩)

田植え: 5/17

← 大学生ら8人参加

収穫: 10/13

← 大学生ら13人参加

生育調査と収量調査によるモニタリングも実施



経営安定化のための農産物加工品開発による付加価値向上



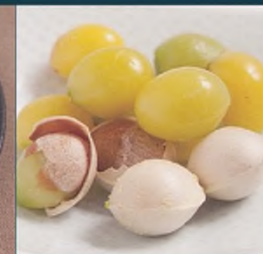
西中 宏美 (能登町)
西中農園

柿農園を経営する上で生鮮品販売のみでは販売期間が限られるのが課題であった。そこで柿の輪切りドライフルーツ加工による販売期間の拡大を図り、人気商品に。

その後も次々と加工品開発に着手。

平成28年度北陸農政局男女共同参画優良事例表彰

平成26年度「いしかわ女性のチャレンジ賞」受賞



- ・ 自社倉庫を加工場を改装。食品乾燥機を駆使して低コストで加工
- ・ 種無し柿を輪切りにして乾燥。その断面模様から「花柿」とネーミング。
- ・ 人との繋がりを活かして、食品加工やパッケージデザインを実現。



里山里海マイスター
一期生 瀬法司 公和
(珠洲市出身)

環境配慮型農家が増えていく仕組みづくり ～新規農業参入のハードルを下げる栽培技術モデル

安価で手に入る環境資源（もみ殻、きのご糞菌床、チップ等）を使用した土作り主体の農法と、地域の気候風土に合った技術を掛け合わせ、誰もが無理なく、低コストで出来る環境配慮型農業のマニュアルを作成する。



里山里海マイスターたちのイノベーション例・・・



里山マイスター1期生
川上和孝さん
農業生産法人取締役
(七尾市)

耕作放棄地を再生、6次産業化を開拓

マイスターで水産加工会社による新規農業参入を研究、石川県内第1号の農業参入を果たす。

能登各地の耕作放棄地を再生、68haの農地で20種以上の野菜を、約700t生産。減農薬栽培による野菜づくりと、自社加工と直売所・レストラン運営による6次産業化を果たす。



里山マイスター2期生
佐野 禎宣さん
個人林業家

里山資源を活かしたクロモジ和精油の生産

里山林の未利用資源だったクロモジ樹木を採取し、高級和精油（エッセンシャルオイル）の生産・販売を行う。

樹木伐採後の再生力の調査を行い、原料の持続的採取を図るほか、アロマセラピストや和裁士ら精油ユーザーとチームを組んで、ブランド化に取り組む。



里山里海マイスターたちのイノベーション例・・・伝統産業



里山里海マイスター4期生
河本基一郎さん
機械メーカー勤務

伝統的製塩法に機械メーカーの技術を活かす

天候や人手に依存している「揚げ浜式製塩法」（重要無形民俗文化財）の現場に、エンジニアの知恵と技術を活かす取り組み。



伝統として守るべき部分を維持しながら、天然塩製造業として産業が成長していくために、対話を通じて生産効率改善法を提案。



期生
大野長一郎さん
製炭工場代表（珠洲市）

クヌギの森づくり、茶炭の産地化を目指す

能登の里山を管理・利用し、高品質・高付加価値の茶道用木炭を製造。原木となるクヌギの植樹活動をNPOとの協働で実施。里山産業のソーシャルビジネス化に。

「お茶炭」産地化を目指し、製炭者、NPO、茶道界、林業関係者、大学などを巻き込んだ「産地化プラットフォーム」を構築。新たな「炭焼き人材」の育成にも。



里山里海マイスターたちのイノベーション例・・・水産業



里山里海マイスター2期生
長竹幸子さん
オーベルジュ経営

能登の食を核としたスローツーリズム拠点づくり

東京から夫婦で能登島に移住、週末レストラン＆民宿を開業（オーベルジュ）。漁師・農家とマルチに活躍＆プロデューサーカを發揮。魅力あるスローツーリズムメニューを次々と開発。



2016年、ミシュラン富山・石川版に掲載。県水産振興協議会等の委員も。



里山里海マイスター5期生 浅井英輝さん
水産加工会社 社員

船凍イカの加工品開発と全国・海外展開

日本三大イカ釣り漁業基地の小木地区で水産加工業を家族経営。

イカの町小木としての地域ブランド発信の核となる担い手。イカせんべいやふりかけなど高付加価値の商品開発を手がけ、全国の催事やシンガポール等ハマーケット拡大を展開。



ご清聴ありがとうございます